

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.27

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

岩手大学三陸復興推進機構シンポジウムを開催しました

3月1日、岩手大学三陸復興推進機構シンポジウムを開催しました。岩手大学は、東日本大震災発生以来、大きな被害を受けた岩手県の早期復旧と復興を推進するために、「三陸復興推進機構」を設置し、「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」をスローガンに掲げ、様々な復興支援活動を展開してきました。今回のシンポジウムは、震災発生から3年を迎えるにあたり、これまでの活動について多くの方に知っていただくことを目的に開催しました。

シンポジウムでは、機構を構成する6部門（①教育支援、②生活支援、③水産業復興推進、④ものづくり産業復興推進、⑤農林畜産業復興推進、⑥地域防災教育研究）からの活動報告に加え、平成25年度後期から全学共通教育科目として開講した「岩手の研究『三陸の復興を考える』」の授業について報告を行いました。この授業では、受講学生の中から希望者を募り、被災地を視察する現地研修も実施し、今回のシンポジウムではこの研修に参加した学生からの成果や感想についても発表されました。

また、ボランティアとして被災地で活躍している学生からは、仮設住宅での足湯ボランティアの活動や子どもたちへの学習や遊びの支援などについて報告があり、これからの被災地における新しいコミュニティづくりに対する支援の必要性についても言及されるなど、充実した報告となりました。



三陸復興推進機構の活動を報告する岩渕明機構長

シンポジウム会場の外では、これまでの各部門の活動内容や成果物を紹介する展示コーナーも設置し、たくさんの方にお越しいただきました。岩手大学は、被災地にある大学として引き続き三陸復興支援活動に取り組んでまいります。



ボランティア班の学生たちが被災地の方々と一緒に作った手芸

三陸復興推進機構シンポジウム プログラム

- 1) 学長挨拶
- 2) 6部門の活動報告
 - ・教育支援部門（後藤尚人 人文社会科学部教授）
 - ・生活支援部門（岩渕明 三陸復興推進機構長）
 - ・水産業復興推進部門（三浦靖 三陸水産研究センター長）
 - ・ものづくり産業復興推進部門（小野寺純治 地域連携推進センター教授）
 - ・農林畜産業復興推進部門（岡田益己 農学部教授）
 - ・地域防災教育研究部門（堺茂樹 地域防災研究センター長）
- 3) 学生ボランティア活動報告
- 4) 全学共通教育科目「岩手の研究『三陸の復興を考える』」報告（名古屋恒彦 教育学部教授と受講学生）
- 5) 今後の三陸復興推進機構の取組について（岩渕明 三陸復興推進機構長）
- 6) 質疑応答

ヤングリーダーズ国際合宿研修が行われました

2月13日から22日の10日間、岩手県内の高等教育機関で構成されるいわて高等教育コンソーシアムの国際教育事業として「ヤングリーダーズ国際合宿研修」が行われました。

この研修は、国際的なリーダーを育成するために実施しているもので、5回目となる今回は、復興ツーリズムなどによる持続可能な町づくりの方法やその課題について検討することを通して、参加学生の「地域課題を国際的



皆で頑張ろう！釜石市宝来館前にて

な視野・立場で捉えられる能力・意識」を高めることを目的として開催されました。

今回の研修には、岩手大学の海外協定校である5カ国8大学から来県した12人と、いわて高等教育コンソーシアム構成校に在籍する学生（岩手大学への交換留学生を含む）19人のあわせて31人が参加しました。参加学生たちは、東日本大震災の実態と復興状況に関する講義や3日間にわたる釜石市内での現地講話、復興スタディーツアーの実体験を通して、復興ツーリズムをテーマに提言をまとめて発表しました。

学生たちがまとめた提言の中には、被災地で見てもらいたい場所を巡る宝探しや食育を兼ねた郷土料理教室など、多彩なアイデアが盛り込まれていました。

岩手大学では、学生の柔軟な発想も生かしながら、引き続き被災地の復興に力を尽くしてまいります。

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、草地の空間放射線量率の調査等を行っている、農林畜産業復興推進部門農地復興班放射能調査グループの活動をご紹介します。

大地の音を聞いてみよう ―放射性セシウム分布の音楽―

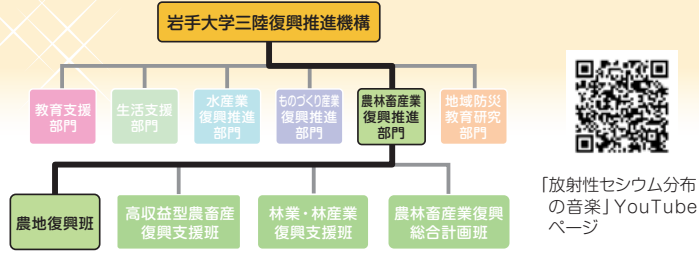
岩手大学三陸復興推進機構 農林畜産業復興推進部門 農地復興班 放射能調査グループ
築城 幹典（農学部 教授）

農地復興班放射能調査グループは、岩手県南地域を中心に、放射性セシウムの暫定許容値を超える牧草が見つかった草地の空間放射線量率および牧草中放射性セシウム濃度の調査を行っています。この調査の結果、線量の分布は、県・市町村レベルではもちろん、農地の中でも不均一な分布をしていて、特に牧草地内では半径数10センチメートルの線量の高いところ、いわゆるホットスポットが点在していることがわかりました。この線量の不均一な分布を音符に置き換えてやったら、どのような音楽になるのでしょうか？ひょっとしたら、大地からのメッセージが聞けるかもしれません。

調査データからの採譜に当たっては、日本音階の一つである都節音階を用い、3オクターブの範囲で低線量は低音に、高線量は高音に音を割り当てました。これに、岩手大学三曲部の指導をお願いしていた藤平 恢山先生に音符を割り当ていただき、牧



草地での線量分布の調査



「放射性セシウム分布の音楽」YouTubeページ

草地の線量調査を卒業課題にしている農学部農学生命課程の山下萌さんに尺八で演奏してもらいました。選択した音階のせいか、曲は思いのほか穏やかな感じで、どこか物悲しい雰囲気を持っています。いきなり高音に飛ぶところがホットスポットに当たります。この曲は、「放射性セシウム分布の音楽」のタイトルでYouTubeで公開しています。

福島第一原発事故以前は自然放射線のみだったため、牧草地内の線量は低く、その分布もランダムでした。このようなところで線量を測って採譜しても、ただの雑音になるだけです。原発事故により降り注いだ放射性セシウムのため線量が高くなり、しかもその分布は不均一なため独特の曲が生まれました。原発事故から3年が経過し、放射性セシウムの半減期により線量もほぼ半分以下になってきました。今回採譜したこの曲も、次第に音量が小さくなり、やがては消えてもとの静けさを取り戻すでしょう。原発事故がもたらした泡沫の音楽は、生まれるべきものではありませんでしたが、原発事故が起き、たまたま調査したことで聞くことができました。もう2度とこのような音楽が生まれないことを願っています。



採譜した曲の尺八による演奏

宮古エクステンションセンターだより

●第2回宮古市新加工品コンクール

2月1日に、宮古市広域総合交流促進施設「道の駅・みなとオアシス シートピアなあと」を会場に「第2回宮古市新加工品コンクール」が開催されました。本コンクールは昨年に続き2回目の開催で、11事業者から23品の出店応募があり、盛況なコンクールとなりました。審査員には東京都恵比寿の日本料理店「賛否両論」のオーナー兼料理人の笠原将弘さんも参加し、厳正な審査が行われました。

最優秀賞には南部鮭加工研究会の「鮭冷燻ケズリ」が選ばれ、優秀賞には丸友しまか有限会社の「元祖ぶっかけまんま メカジキのそぼろ煮」と、マルヤマ山根商店の「えぞ鮑肝赤南蛮仕込み」が選ばれました。これら受賞商品を見かけましたら是非お求めいただき、ご賞味ください。



最優秀賞の「鮭冷燻ケズリ」
(写真提供：宮古市産業支援センター)

●防災タールの商品化

平成25年4月に、障がい者授産施設を運営している宮古アビリティセンターから、震災津波時に得た教訓を記した商品開発をしたいという相談が寄せられました。自社商品として開発することで震災津波の教訓を忘れないでほしいという思いを形にし、更には商品の包装作業などを施設利用者の仕事として確保したいと希望していました。

早速、本学の地域防災研究センターと商品開発に向けて協議が始まりました。開発する商品は、常に身近に置くことが可能で津波によって失われる

命をなくしたいという思いを表現することが出来る、34cm×84cmサイズのフェイスタオルとしました。

開発当初は、作成メンバーの様々な思いが盛り込まれていましたが、「防災を意識させるには震災津波で得た教訓の中でも一番訴えたいものに絞らねばならない」と本学教員からのアドバイスがあり、記載項目の絞り込みには大変苦労されていたようです。十数回の打ち合わせを経て、最終的には様々な関係者の思いを集約した商品が出来上がりました。

2月19日に、宮古アビリティセンターが運営する障がい者施設商品を販売する店舗「あびさあべ」で行われた完成披露会には、商品デザインに協力した方々や地域防災研究センターの教員も参加し、防災意識を高める事の大切さを伝えました。



防災タールの図柄



防災タールを受け取る
地域防災研究センター教員

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 宮古エクステンションセンター

〒027-8501 岩手県宮古市新川町2-1
宮古市役所宮古市産業振興部 宮古市産業支援センター内
TEL : 090-2886-8887 E-mail : miyako@iwate-u.ac.jp

Information

東日本大震災被災学生募金のご報告とお願い

岩手大学では、東日本大震災で被災した学生への支援を目的とした東日本大震災被災学生募金を平成23年3月から実施しています。

これまでの3年間に、全国の**762名様と51の団体様**から**48,332,295円**（平成26年3月18日現在）が寄せられ、実家が全半壊の被害を受けた学生、家計を支えていたご家族を亡くした学生、福島原子力発電所事故の影響で実家が警戒区域内等に指定された学生など、震災による被害を受けた学生に対し修学支援金や奨学金を渡すことができました。改めて御礼申し上げます。

岩手大学では今後も被災した学生に対し、経済的支援を行ってまいります。将来ある学生たちが困難な事態に怯むことなく、果敢に立ち向かっていくことができるよう、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金の方や詳細については、下記URLをご覧ください。
<http://www.iwate-u.ac.jp/attention/shienbokin.shtml>

募金に関するお問い合わせ

総務広報課
電話：019-621-6006
メール：bokin@iwate-u.ac.jp

編集後記

この3月に開催した三陸復興推進機構シンポジウムでは、各部門からのこれまでの活動について報告が行われました。

東日本大震災の発生から3年がたち、復興に向けて「これまでやってきたこと」が着実に増えたのは確かですが、一方で時間が経つほどに「まだできていないこと」に対するもどかしさも募っていくように感じます。

復興への道のりはまだまだ長いですが、岩手大学は今後も岩手の復興に向け、活動を展開してまいります。